

Since 1922

自然と手を
心の通った合わせたくなる——。
お仏壇を生む技と心

Vol.12

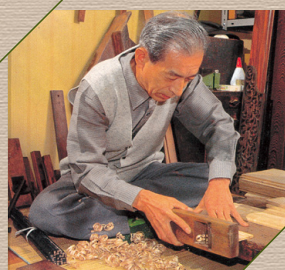
あとう仏壇製作所

本店ショールーム
東京都台東区台東 3-27-11
TEL 03-3835-8777
http://www.atou.co.jp/

1 創業者である阿藤要氏。職人の組合組織である東京唐木仏壇工業協同組合の設立にも関わる



2 東京都伝統工芸士に認められた二代目、阿藤忠保氏。確かな技術で生み出された仏壇作りで、数々の受賞歴を誇る



3 江戸時代からの伝統的な技法を用いて製作された、東京都指定・伝統工芸品である東京仏壇。最高の木地に細部にまで彫刻が施されている

4 昭和58年(1983)に百貨店で開催された伝統工芸展で店頭に立つ三代目の阿藤広行氏。店頭で直接お客様に本物の良さを伝えている



6 洋室に置かれることが多くなったお仏壇。その部屋に合わせた色合いやデザインで製作する。新しいデザインの物にも確かな職人の技術が息づく



7 佐竹商店街にある店舗。遠くは九州など全国からオリジナルのお仏壇を求め、多くの人が訪ねている



5 現在代表を務める阿藤広行氏。様々な思いや事情を持つお客様一人一人に合ったお仏壇を提案してくれる



台東区は古くからの職人町として知られ、今も多くの伝統技術が受け継がれている。その台東区にある佐竹商店街は、東京で最も歴史のある商店街である。そこに店を構える「あとう仏壇製作所」は、お仏壇の「本質」を職人の技を通して現在に伝えている。

かつては、家の中心にあったお仏壇が存在しない家庭も増えている今。「本物のお仏壇は自然に手を合わせたくなるお仏壇」という、先代の思いを胸に、三代にわたって日本の文化を広めている。華美な装飾よりも厳選された木地の良さを

活かす東京都指定の伝統工芸品・東京仏壇の伝統を継承しながら、現代の生活スタイルにもマッチする新しいお仏壇を提案・製作している「あとう仏壇製作所」。創業から九〇余年、人々の心を動かす製品を生み続けている。

日本の伝統技術を
後世に伝える

創業者阿藤要氏は、大正時代の初めに上野の仏壇職人に弟子入りし、厳しい徒弟制度のもとで修業を積み技術を身につけ、大正十一年(一九二二)には独立を果たす。要氏は、大店の下請けとして厳しい条件のもとで仕事をしてきた仏壇職人たちが、それぞれの力を発揮できるように、組合組織の構築に尽力する。そしてその組合で東京仏壇の設計図をつく

り上げる。それは、東京仏壇という江戸からの歴史ある伝統技術を後世に伝えるためのものであり、職人が技術を身につける上で欠かすことのできないものとなった。

二代目である阿藤忠保氏は平成四年(一九九二)に高度な伝統技術で「東京都伝統工芸士」に認定される。平成九年(一九九七)には東京都功労者として知事により表彰を受けている。創業者の意志を受け継いだ忠保氏は、黒檀や紫檀など銘木を使い伝統技術を守りながらも東京人好みのシンブルでモダンな仏壇製作を行う。生活スタイルが激しく変化する時代の中で、使う人の立場に立ち、機能性、使いやすさに目を向けることも忘れてはいない。心をこめて作られたそれらの作品は全国伝統的工芸品展等で数々の受賞に輝いている。

時代が移り変わっても
心の通うお仏壇を

三代目広行氏は「どんなに時代が変わってもお客様のニーズに合わせた心の通ったお仏壇を作り続けていきたいですね」と語る。百人いれば百通りのお仏壇があつて然りと云う広行氏は、お客様の生活スタイルや故人への想いを聞き、プロの目から最適な商品を提案している。洋間に置いても違和感のないデザインや、椅子に座って手を合わせることができるとお仏壇などもある。

「仏壇」それは、私達が自分を支え、守ってくれた故人や先祖への感謝を伝える場所である。家族の繋がり、絆の大切さが叫ばれている今、改めて、その本当の意味、大切な心を見つめ直す必要があることを、下町の佐竹商店街にある「あとう仏壇製作所」は伝えている。